

笑顔引き出すシニアインフルエンサー



日を追うことに日没の時間が早くなり秋の深まりを感じます。秋風に揺れるコスモス、山茶花の垣根、夏の花だと思っていたヒマワリの花が元気に咲いていたり：四季折々の美しい花や風景を撮影して楽しむの心が豊かになりますね。今回は、みのゝれ住民劇団「演劇ファミリーMyu」広報部と、みのんは編集局で写真撮影を担当している、小美玉市小川地区にお住まいのシニアインフルエンサー、齋藤友幸さん取材します。

Myu広報部／おみたmagazine カメラマン

さい どう とも ゆき
齋藤友幸さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.182

「孫」が増えた 「齋藤じい」

もともとMyuのファン。

2021年3月「わが家の天ぷら」を観て感動し、SNSに投稿した記事がメンバーの目に留まり、声を掛けられMyu広報部に所属。大学生など4人の広報部員と共に活動。稽古日には何千枚もの写真を撮影した中から選定してSNSにアップしています。

2012年に石岡市から小美玉市に移り住んだ齋藤さん。66歳で退職してから、趣味のサイクリングとカメラを活かしてSNSに投稿するようになりました。

今では何台もの一眼レフを操る齋藤さんのカメラ歴は、意外にも小美玉市に移り住んでからのこと。2015年2月に、スマートフォンで梅の花を撮影してSNSに投

稿したところ、石岡市の写真家から褒められたことをきっかけに、一眼レフカメラを購入。花の写真を撮るようになりまし

た。身体が楽ですよ。撮影の依頼があれば『はい！行くよ』って感じです」と話してくれました。

サイクリングは、小美玉市の健康診断でメタボ寸前と診断され、担当保健師から食生活と運動による体質改善の指導を受けたのがきっかけ。自転車の走行距離を増やしたり、様々な機能が付いている体重計で毎日管理。往復53kmある大洗まで走って海鮮丼を食べたり、往復70kmある笠間稲荷やひたち海浜公園まで走ったりすることも。「おかげさまで病気知らずですね。今思えば健康診断はありがたかったです。保健師さんもとても良い人でした」と齋藤さん。

「週に2回は30kmの自転車走行をしています。健康維持のため、家にこもっていないでなるべく出かけようと思っています。動いていると

小美玉のシティプロモーションに関わったことで、地域のクリエイターたちや若い人たちの交友関係が一気に広がりました。そしてみのゝれに関わるようになり、Myuの子どもたちから「齋藤じい」の愛称で親しまれています。「孫」が一気に増えましたよ」とほほ笑む齋藤さん。「みのゝれは心底楽しいところです。撮影するときの基本は笑顔。楽しそうな表情を撮るように心がけています。自分が笑えば相手も笑ってくれる。にっこりが基本ですね」と笑顔。

カメラ席から舞台を温かく見守る齋藤さんの姿に、キャストの皆さんは癒やされていることでしょう。これから齋藤さんの素敵な写真を期待しています。（藤田佐知子）